

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		芦屋市立すすくすく学級		公表日		R8年2月12日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・利用定員に対しては十分な広さや訓練室を確保している。	・利用定員増加に向けて、事業内容の工夫や変更が必要。R8年度に向けて事業内容を検討中。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・国の人員配置基準は満たしている。こどもの状態に合わせて訓練士を確保している。	・現状維持に努める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・こどもの年齢や発達に応じて適宜環境を変えている。 ・滑り台やロッカーの角等、危険のないように保護用のクッション材を取り付けている。	・こどもの運動発達に刺激を与える環境になっているため、バリアフリーの観点からの確認や配慮も随時確認が必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・清掃は毎日行っている。こどもの発達や興味に合わせて玩具を提供するようにしている。	・現状維持に努める。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・保育室や訓練室等、複数の部屋があるため、必要に応じて個別使用することは可能。	・現状維持に努める。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・個別支援計画の会議には全職員が参加し意見を出し合っている。 ・毎日の保育や各事業の内容など、その都度振り返りや話し合いを行い次につなげるようにしている。	・現状維持に努める。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・評価表だけでなく、1月に保護者アンケートも行っている。保護者全体や個別に聞き取りをする機会を設けて、業務改善に繋げるようにしている。	・現状維持に努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・毎日、保育終了後に振り返りを行い、業務改善に繋げるようにしている。	・現状維持に努める。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・第三者評価による評価は受けていない。	・必要に応じて、評価を行うようにする。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・日々の申し送りや会議等の中で、発達支援やインクルーシブ教育・保育研修会、幼児教育研修会等の研修に、職員全員が参加する機会を設けている。研修終了後に、参加者の報告を行い、共通理解を深めるようにしている。	・現状維持に努める。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・週案を作成し、掲示板で提示している。月ごとのおたよりを発行してプログラムを知らせている。	・現状維持に努める。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・入級前(見学やブレ入級時の姿)や新年度前に保護者へのアセスメントの機会を設け、日々の行動観察を記録し、職員全員で検討した上で個別支援計画を作成している。	・現状維持に努める。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・個別支援計画は、こどもの支援に関わる職員全員が会議に参加し、共通理解の下で作成し検討を行っている。 ・個々に応じて、進路相談や卒級後の訓練等についても相談に応じるようにしている。	・現状維持に努める。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・日々振り返りの中でも職員間で計画を共有し、支援を行っている。	・現状維持に努める。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・インフォーマルなアセスメントは、精神科医によるこころの相談等で行い、こどもの適応行動の状況を確認している。	・現状維持に努める。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・個々に応じて具体的な支援内容を設定するようにしている。	・個別支援計画の説明時だけでなく、日頃から保護者に各項目の支援内容について伝えていくようにする。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・週ごとの保育リーダーが週案を立てている。その内容を職員全員で検討したものを共有している。 ・活動内容や支援方法などに発達相談員、訓練士等の視点からも検討し、プログラムの内容を考えている。	・現状維持に努める。

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・週ごとに職員全員で確認し、前週の保育との繋がりがりや、季節に応じた保育内容を意識している。 ・新しい体操や運動、制作活動等を積極的に取り入れている。	・現状維持に努める。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		・主に自由保育の中で個別活動、設定保育の中で集団活動を組み合わせて個別指導計画を作成し、毎日支援を行っている。	・現状維持に努める。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・毎朝申し送りや保育の打ち合わせをした上で、支援を行っている。	・現状維持に努める。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・保育終了後に、気づいた点、良かった点、改善点などを出し合い、次の保育に繋がるようにしている。	・現状維持に努める。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・こどもに関わった職員は、毎日その日の姿を観察記録に記入し、職員全員が確認できるようにしている。	・現状維持に努める。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・中間や最終評価の際にモニタリングを行い、計画の見直しを行い、必要に応じて変更している。	・現状維持に努める。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・会議に参画はしていないが、相談支援専門員との情報共有はある。	・必要に応じて参画していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・所長が関係機関と連携して支援を行う体制を整えている。	・現状維持に努める。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・併行利用児はいないが、移行に向けた支援は進路先の所園との間で情報共有や相互理解を図っている。	・現状維持に努める。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	・すすく学級からの進路先のほとんどが、こども園・幼稚園・保育所のため、現在該当児がいない。直接小学校との間で情報共有することはないが、療育支援会議の中で、在級当時の姿について聞かれることはある。	・必要があれば、情報共有や相互理解を図るようにする。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○	・地域の児童発達支援センター(あしやみらい)との連携はないが、卒級後の児童発達支援として保護者に紹介することはある。 ・すすく学級内で指導や助言を受ける機会が日常的にある。	・あしやみらいとの連携の機会について、必要に応じて検討していく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・しばらくコロナ禍や猛暑の影響で交流する機会がなかった。今年度は市立緑保育所の木育キャラバンに参加させてもらったり、すすく学級での音楽コンサートに市立岩園保育所の5歳児を招待したりと、一緒に参加する機会は得られた。	・交流までには至らなかったため、引き続き保育所やこども園、幼稚園等と連携し、交流する機会を検討して実施できるようにしていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・親子通園方式を行っているため、日頃から共通理解を持つ機会がある。	・現状維持に努める。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・現在、ペアレントトレーニングのプログラムは実施していないが、親教室や個別相談、発達相談、こころの相談等で家族に対して関わりを学んだり相談したりする機会はある。 ・訓練士の事業所等から、家族等の参加できる研修案内は随時配布している。	・家族支援プログラムについては、発達相談員とも連携して、説明を行うようにしていく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・こども政策課の窓口にて重要事項等の説明を行っている。見学时や入級後も必要に応じて説明することもある。	・運営規定については、保護者がいつでも見ることができるようファイルに入れて置いておくようにする。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・こどもの様子に合わせて保護者の願いを聞き取り、計画を作成している。	・現状維持に努める。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・毎回同意を得るようにしている。	・現状維持に努める。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・個別相談、発達相談などの機会での支援を行っている。 ・訓練の中でも訓練士が助言を行っている。	・現状維持に努める。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・現在、保護者会は設置していないが、保護者同士の交流の機会は親教室の中で行っている。 ・きょうだいへの支援は行っていないが、設定保育の時間帯にきょうだい同士の保育を行っている。	・発達相談員とも連携し、親教室の内容については、保護者同士の交流もより意識した内容を提供できるようにしていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・保護者からの相談や問い合わせ、申し入れがあった場合は、その都度対応するようにしている。	・現状維持に努める。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・すすくす学級だよりにて発信しているが、毎日保護者と話をして情報共有できるため、ソーシャルメディアの活用や通信を利用した連絡事項の伝達は行っていない。	・連絡事項の伝達は、今後も直接保護者との対話の時に丁寧にを行うようにする。 ・HPですくすく学級の詳細を更新する予定にしている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人情報に記載された書類等については、鍵付きのキャビネットに保管するなど、取り扱いには十分配慮している。	・今後も保管についての配慮を継続すると共に、保護者や関連機関と話をする際にも、内容については十分に留意していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・こどもや保護者に合わせて写真やイラストを使って分かりやすく説明するよう工夫したり、理解してもらっているか確認しながら意思の疎通を図っている。	・現状維持に努める。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	・個人情報の観点から行っていない。	・保育所やこども園、幼稚園等との交流は引き続き行っていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・各マニュアルについては、施設内に設置しており、職員には周知している。保護者にも毎月の訓練時に周知するようにしている。	・各マニュアルがいつでも閲覧できるようにしておく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・BCPの見直し、確認は年1回職員全員で行っている。	・現状維持に努める。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・現在てんかん発作等に該当する児童はいないが、服薬や予防接種、てんかん発作等の状況は保健調査票や入級時の聞き取りによって確認している。	・現状維持に努める。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・診断書や指示書の提出は必須ではないが、保護者を通じて確認を行い、医師の診断に基づき対応するようにしている。	・現状維持に努める。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・計画を作成し、研修や訓練を年8回程度行い、安全管理に十分配慮したうえで支援を行うようにしている。	・現状維持に努める。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・毎月の避難訓練時に、保護者へ周知するようにしている。	・現状維持に努める。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・危険な事例があった場合、報告書に記載し、職員全員で共有し、速やかに改善に向けた対応をしている。	・現状維持に努める。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・虐待に対する正しい知識を得て、こどもと関わりがもてるように、虐待防止に関する研修に参加したり、年1回職場でも研修を通して話し合う機会をもっている。	・現状維持に努める。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		○	・運営規定には身体拘束についての記載はあるが、現在対象のこどもがいないため、個別支援計画への記載はしていない。	・身体拘束に関しては、こども本人の生命や身体を保護するため緊急を要する場合に、切迫性・非代替性・一時性であることを条件に行うことを職員の共通認識とし、今後対象児が入級する時は、個別支援計画への記載を行い、保護者へ説明したうえで、同意を得るようにする。